

戦闘的国鉄労働運動再生の主流派



日刊 動労千葉

84.4.24

No. 1924

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)〇四七二(22)七二〇七

'85新賃金引き上げ要求、公労委・関東地調委へ 4/19本社交渉に続き 4/22公労委で2回事情聴取

動労千葉は、4月22日、公労委・関東地調委で開催された85新賃金についての2回事情聴取で、当局の超低額回答を糾弾し、組合要求にもとづく解決を要求した。この事情聴取は、「動労千葉申す15号(34付)」による動労千葉の85新賃金要求に対し、4月19日の本社交渉において当局が超低額回答を行ってきた(日刊4/19号で既報)ことに對し、動労千葉が4月20日、団交打ち切り通告を行い、調停申請したことに付まえて開催されたものである。2回事情聴取は4月24日に予定されている。(詳報別途)

'85春闘勝利 動労千葉総決 起集会での布施書記長の基調報告



基調を提起する布施書記長(1985.4.16)

85春闘の決戦段階を迎えた四月十六日、動労千葉は津田沼電車区構内を埋める四九六名の結集をもって「85春闘勝利、謀略的組織破壊攻撃粉碎、首切り『三本柱』粉碎、動労千葉総決起集会」を開催し、この決起を出发点にさらに団結をうち固め、当局、動労「本部」革マル一体となった「三本柱」「過員」、組織破壊攻撃を打ち破ることを確認した。本号では布施書記長の基調報告の要旨を掲載する。

当局は五年後に十八万八千人体制を実現し、十五万人の首を切るといい、監理委員会は七月にも「分割・民営化」の答申を出すといっている。国鉄労働運動が血を流してかちとった権利を奪いと、労働強化をおしつけ、賃金を上げないといわれて怒らない労働者や労働組合があるか。情勢の厳しさを認識し、激しい怒りをもって闘うことなしに、今日の情勢は突破できない。

マル生闘争を教訓化し、
原点にたつて闘おう

当局は職場での姿勢を転換させつつある。いま全国の職場で、当局のいうことを聞かないと交番にのせないなどということが公然と行われている。動労「本部」革マルがその先棒をかついでいるのだ。

千葉はわれわれと国労ががんばっているから、まだそこまでやられていないが、今までと違う当局の動きを確認しなければならぬ。と同時に動労「本部」革マルが先兵に使われようとしていることを見なければならぬ。

当局は十、十五万人の首を切るといっているが、ネクタイをしめたり、カーテンをあければ首を切らないのか。いうことを聞けば次々と攻撃をエスカレートさせてくることは、動労「本部」革マルをみれば明らかだ。

85春闘に突入するが全体情勢は非常に厳しい。かといってそれですまされるのか。動労千葉は今日、ここに結集した組織の総力をあげて85春闘を闘う。われわれは五割の賃上げが、闘いでかちとったものではないことを認識しなければならぬ。定昇、物価上昇分を除けばゼロに等しい。こうしたことへの怒りから出発しなければならぬ。国鉄をめぐる状況はどうか。

闘うことなしに情勢は突破できない

(裏面へ続く)

国鉄労働者は常に職責を問われ、安い賃金を押しつけられながらも、乗客の生命を守るために働いてきた。にもかかわらず、風向きが変わったからといって、政府の言いなりになって、国鉄の本来的役割をすら考えようとしなかった国鉄当局が生意気なことをいうんじゃない。

われわれは職場・生産点から闘いを創り出していかねばならない。マル生当時、当局の「ワッペンをはずせ」との攻撃に一人ひとりががんばりぬくことを通して、今日の国鉄労働運動をつくってきた。もう一度その原点にたとうではないか。

当局と、労働者としての存在をかけて勝負しよう。「労働組合があつてよかった」というような闘いをやっぺいこう。

労働組合らしい闘いをやろう

「三本柱」をめぐる攻防もギリギリに煮つまってきた。 「三本柱」推進運動に血道をあげている動労「本部」革マルが当局の犬となり、早々と片仕切りの裏切り妥結を行ったばかりか、こと

もあろうに、動労妥結の水準以上のものは出さないでくれ」と当局にすがりついて哀願し圧力をかけている状況、更には、既に国鉄内の一部組合が妥結している以上、それに従え、なる反動的な公労委仲裁や当局の「雇用安定協約破棄通告」の不当圧力の前に国労が屈するという極めて厳しい状況に对决して動労千葉は今日唯一孤塁を守りながら全力で闘い続けている。このような状況下で敵の攻撃の圧力は一点わが動労千葉に集中してきているが、われわれは敢然と立ち、さしあたっては公労委一団交の場をも活用し、あくまでも労働運動の原点をふまえて更に当局を追いつめ闘っていかう。

何のために労働組合に結集するのか。

労働者は、本当は労働組合らしく闘う労働組合を求めているのだ。みんなが闘うことが原点だ。

「動労『本部』革マルのようにならない」を鉄則に、労働組合らしい闘いをやっぺいこう。

戦闘的国鉄労働運動再生への主流派へ！

動労「本部」革マルは「協定を結べない動労千葉は首を切られる」などとウソをいい始めたが、そう簡単にくわけがない。

この自信があれば充分闘えることを見せつけてやろう。3・24三里塚への

の動労千葉を先頭とする千名の国鉄労働者の決起を見れば、この激動の中で我々が国鉄労働運動の主流派を担いつつある。当局の攻撃に怒りを燃やし、今日を契機に決起しよう。

労働学校第二回講座御案内

テーマ「国鉄『分割・民営化』の狙うもの

講師「労働運動研究家 杉田 明氏

日時「4月27日(土) 13時30分～17時30分

場所「動力車会館 (千葉市曙町二ノ八、国鉄
電話0477-212177・212178 東千葉駅前)



85春
動労千葉
総決起集会
(1985年4月16日、津田沼
電区)